

V

同志社大学

2010年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2011年 2月 28日提出

所 属	職 名	氏 名
神 学 部	教 授	石 川 立
研 究 題 目	聖書の神学的解釈の回顧	
研 究 成 果 の 概 要	<p>旧約および新約聖書は、本来、神認識を促し、信仰を深化させるための宗教的な書であるべきであるが、近代以降の聖書研究は、もっぱら歴史・批評的な方法論によって、聖書に関する客観的な諸情報が集積されるにとどまり、本来の神学的、信仰的な解釈がおろそかにされることになった。この点を補うために、近代以前すなわち古代・中世の聖書解釈を現代において復興させることが必要となってくる。</p> <p>2010年度はキリスト教ギリシア教父およびラテン教父の著作を丁寧に註釈しながら読解してきた。この作業の一環として、昨年度に引き続いて、ヴルガータ聖書（ラテン語訳聖書）に収められているラテン語訳者ヒエロニムス（ラテン教父）のいくつかの「序」を共訳することで、ヒエロニムスの聖書解釈とユダヤの聖書解釈の関係がより明瞭になった。この邦訳は、神学部の学術雑誌『基督教研究』に収録された。</p>	